

## 幼・小・中 PTA 代表者と教育振興会役員との懇談会記録



平成18年1月28日  
13:30~15:30  
岡山市教育センター

### ○ 出席者

幼稚園	会長	秋庭	一夫
小学校	会長	堺	史郎
	副会長	小若	実
中学校	会長	貝原	克彦
	副会長	大野	玄秀

### 教育振興会役員

会長	辻	吉之祐	
副会長	古河	三朗・植田	心壮
監事	平山	隆司・中山	四郎
運営委員	分島	久志・井上	甫之・守安 滉・鳥越 茂・小畑 京子
	波多	豊子・吉澤	佳子・遠藤 陽士
事務局長	内海	勉	

### 1 開 会（辻会長）

- ・ 昨年は、天災・人災で大変多くの災害があり、各地に被害をもたらした大変な年であった。
- ・ 10月の国体では、天皇・皇后両陛下はじめ、多くの皇族方が来岡された。悲願であった天皇皇后杯の栄誉に輝いた年でもあった。
- ・ 昨年の締めくくりとして、紀宮様のご成婚という慶事があり、誠におめでたく心よりお祝い申し上げたい。
- ・ 国民的課題の山積している中、耐震偽装問題・ライブドア事件と続き、倫理、道徳モラルが問われる事件が取りざたされている。
- ・ ITの進歩にともなって、市場に新しいフロンティアが現れ、新しいビジネスチャンスが生まれている。ITに強い20代・30代の若者たちがインターネットビジネスの世界で起業し、時代の

ヒーローともいうべき人たちもでた。

- ・ 金儲け、金さえあれば何でもできるといった考え方、法律を犯しても、自分たちさえよければよいという利己的な考え方で、方向を誤った事件である。
- ・ 自分の利益を求めただけでなく、社会全体のことを思いやり、公共の福祉のために役立つとする高い志をもってほしかった。
- ・ 感謝と思いやりでITを活用する、真のヒーローの出現を期待する。
- ・ 教育問題は、目を覆いたくなるような現状である。小学校における学級崩壊が広がりを見せ、「きれる小学生」が増えている。
- ・ 不登校・引きこもり・女子誘拐殺害事件等の増加。子どもを取り巻く環境は大変厳しい。
- ・ P T Aの皆様には、各学校において交代で授業サポート、登下校のパトロール等でご苦労をおかけしている。心から敬意を表したい。
- ・ 教育に携わる、大人・教師・P T A保護者が、しっかりとした考えをもち、子どもたちを育て、見守ってやらなければならない。
- ・ 初めてご参加のP T A役員の方に、教育振興会の説明をする。
  - \* 1978年(昭和53年)岡山県教育振興会発足と同時に発足。
  - \* 目的は、偏向教育を是正し、日本人として中立な教育の振興に寄与すること。
  - \* 15年前、故谷口澄夫先生の時代から、教育の本質を問い直すこと、教組との対立の会から、中立にして公正な教育の追求をする。
  - \* 学校現場・家庭教育・社会教育を側面から支援すること。
  - \* 「教育活動ボランティア人材バンク」「少年少女発明クラブ」を発足させ、子どもたちの健全育成に努めている。

## 2 各校園がそれぞれの実状を簡単に説明。

今年、P T A連合会が、岡山市P T A協議会を立ち上げた。子どもをもつ保護者が一体となって育ていく。幼稚園からの積み重ねが大切。3Pという形です。活動方針のスローガンとして、「みんなで育もう 子どもの夢 未来」を考えた。2月13日に市役所正面玄関に、懸垂幕をたらす予定。

- ・ 教育現場で頑張っている先生に、「フレーフレー感謝状」を出す取組
- ・ フォーラムを開催し、「すばらしい先生」はどんな先生なのかを広く公開したい。

## 3 懇談(司会 運営委員)

### (1) 岡山市教育振興会の現状

岡山市教育振興会内海事務局長より説明がある。

- ・ 岡山県教育振興会の下に岡山市教育振興会の組織があり、それぞれの学区振興会がある。
- ・ 16年度の事業・17年度事業計画
- ・ 各種団体との懇談会開催
- ・ 学校支援ボランティアへの登録
- ・ 平成16年1月 岡山市少年少女発明クラブ発足
- ・ 岡山県発明工夫展で2つの賞を受賞

### (2) P T Aの現状

司会 幼・小・中のそれぞれの悩み等も話していただきたい。

#### <幼稚園>

- ・ 子どもの数が減り、小規模園が増加

- ・ 幼・保一体化・統合施設の話がある
- ・ 公立幼稚園は地域に根ざした幼稚園である。行政主導で事を進めるのではなく、地域の者との話し合いをしてほしい。行政側だけの判断で、幼・保一体化・統合施設の話を進めてほしくない。
- ・ 3歳児保育を望んでいる保護者は、経費の安い公立を望んでいる。

#### <小学校>

- ・ 学校といえば、校長と教頭の顔しか見えない。
- ・ 学校 = 管理職というのはどうか。
- ・ 学校・保護者・地域とするならば、学校の顔が校長、教頭だけでないほうがいいのではないか。
- ・ 先生の集まっているところが学校と考えてもいいのではないか。しかし、現状は先生は忙しいといわれる。何かしようとするとう忙しいという。先生の忙しさをどうクリアしたらいいのだろうか。
- ・ 先生の仕事じゃないと言われる。じゃあ、教員の仕事は何なのだろうかをもう一度考えなくてはいけない。
- ・ 学習塾は、いかに子どもの心をつかみ成績を上げ、高評価を得るかの努力をしている。
- ・ 学校現場も、授業がベストで、そのためには子どもの心をつかみ、親のニーズの答え、保護者とのかわりをもつことも、職域と自覚してほしい。
- ・ 「学校とは何をするとところか」を問う。

#### <中学校>

- ・ 中学校は、高校進学ということが目の前にある。
- ・ 先生本来の仕事でないことを先生がやっている。
- ・ 若い先生は、先生になるための努力はしてきたが、社会的な経験がない。
- ・ 若い先生には、授業以外での指導をしてほしい。若い先生は孤独である。
- ・ 会社等では、問題が発生したら、上司に報告し、会社ぐるみで対応する。学校の先生は、問題を自分で抱えこんでしまう。精神的疾患の先生が多い、ストレスを感じても、それをうまく処理できない。
- ・ 子ども的心をつかまないと、子どもはついてこない。気持ちを捉えるには、実技をする。人にできないことをやるとなどすると、捉えられる。
- ・ 先生である以上、年代、年代にあったことをやる。先生らしくない先生・子どもの言ったことをうらぎる先生・先生になりきれない先生が多い。
- ・ 子どもは先生を選べない。大目にみてやってくれと管理者は言うが、それは間違いである。
- ・ OBの先生で、新任教員の指導をしてほしい。
- ・ 親の教育も必要。PTA活動に参加しない層をどうするか。何もやらないし、参加しようともしない層をどうするか。
- ・ 学校支援ボランティアで、習熟度別の補習にしている。1名の子どもを受け持っている。
- ・ 今、お寺も、開かれたお寺を目指している。宗教上難しいかもしれないが、本堂を開放し、地域にあるお寺を目指している。地域にあるお寺を利用してほしい。

#### <教育振興会運営委員>

- ・ 学校って、教育って、の指摘があったが、望ましい家庭って、地域って考えた。
- ・ 学校って何だろう、教員ってなんだろう。問題がおきた場合に、社会が悪い、家庭が悪いで済ませてはいけない。
- ・ 教員は常にプロ意識をもって仕事をしている。
- ・ あの先生は、先生としての感性に欠けているといわれたことがある。
- ・ 目の前の子どもをどう育てたいか。私は、こう育てたい、そのためには家庭にも望みたいことがある。
- ・ 目のまえにいる子どもをつかむ。
- ・ 今、地域協働学校でいろいろな問題に取り組んでいる。
- ・ 幼稚園も、一体化、一元化の動きがある。子どもたちが、環境に働きかけ、いろいろな体験をして気付く、その気付きを待ってやるのが大切。

#### <教育振興会役員>

- ・ 今日お目見えの幼・小・中の方々は非常にいい。
- ・ 今日、皆さん口をそろえて、教育の根幹をいってください。すばらしい。
- ・ 先日の新聞報道で、岡山大学の森川教授が、「岡山大学は、地域のために教員養成をする。小学校中学校の教員になることを目指してやっていく」と明言された。かつて、ゼロ年教員といって、教育学部を卒業しても、教員にならない学生のいた年もあった。森川教授の明言は、教員養成校として大切なことである。
- ・ 若い教師は、技術的なことはかなわないが、子どもの中に飛び込むこと、意欲があることが特色。
- ・ 若い先生を鍛えることが大切。多くは、やっていることだが、我々も努力しなくてはいけない。
- ・ あんまり年寄りと言うな、老害じゃといわれるが、これからは行ってやろうと思う。少しでも変えてきたい。意欲をもっていきたい。

#### <教育振興会役員>

- ・ かつて、連Pの会長が教育委員長をするのはどうかという問題があったが、辻会長は引かれない。腹の中では教育に対しての熱意がある。
- ・ 今の校長は大変だと思うが、我々の時代には何もなかったかということ、そうではない。その時代、時代の困難はあった。
- ・ 校長一人が物事を考え、悩んではいけません。口に出して話す。PTA 会長にいう。苦しい時に PTA 会長に話して、その反応によって安心して困難に立ち向かえる。
- ・ 今の会長さんどうか、校長は苦しいところがあるので、そういう時には、力になってやってほしい。「ま、校長さん、あわてずにいこう。」「解決していきましょう。」といってくれたら元気がでる。困難な時には、力づけてやってほしい。ご支援をしてやってほしい。
- ・ 担任の不信任について。子どもにとっては、ワンチャンスである。先生と子どものチャンスは、ワンチャンスだから。
- ・ どうしてもできない先生は、教育センターの中で、研修期間をもっている。いいところを見つけ「あなたにはこんな力があるよ」ということをいう。そのことしか方法はない。学校評価、先生の評価がでてくるが、「あなたには、こういういいところがあるよ」といい、そのためにはどうすればいいかということ、このための評価がいる。PTA側から見てもそういう見方しかない。

司会 学校というところが話題になっているが、学校がすること、その前に家庭がすべきこと、そして地域社会がすることがある。特に、「家庭というもの」について、PTAの中でどういうように話をされているか。

#### <幼稚園>

- ・ 今、家庭の教育力が落ちてきている。どういうふうになればいいのか。生活のリズムがない。
- ・ 親だけでなく、社会全体がそうである。
- ・ 女性が働くことの現状。
- ・ 早寝早起きをすると生活のリズムができてくる。それが基礎力になり、学習意欲につながる。
- ・ 生活習慣をつけること。いい先生には、親も影響される。

#### <中学校>

- ・ 問題ばかりでどこからいったらいいのか
- ・ 役員をしているような者は、できているかどうかは別にして、家庭でもやっているが、無関心層をどうするか。
- ・ PTA活動でも、まず参加しよう。ここがまだ十分出来ていない。聞いてほしい人は来てくれ

ない。ここで、二極化されてしまう。

司会 民生委員、主任児童委員との話し合いがある。教育振興会には女性の役員もいる。家庭というものについて、期待される家庭について述べてほしい。

#### <教育振興会運営委員>

- ・ 家庭の中では、お母さんが太陽のような存在であることが大切である。
- ・ 家庭の中心はお母さんである。
- ・ 幼稚園の集団の中でよいお友達を見つけて、お母さん同士が仲良しになれば、子どもも安定し友達と仲良くなれる。
- ・ 友達を見つけるためにも、PTA活動に参加してほしい。
- ・ 皆がお互いに知っていることを教えたり、教えあったりして自分を高めること。
- ・ お互いに助けあったり、支えあったりすることが大切。

司会 ・教育改革というのは、学校・地域・家庭がそれぞれの役割分担を明確にし、連携しながら子どもを育てていくことである。  
・教育振興会は、地域の教育力を担っている。  
・本日は、今までになく腹をわった話ができたと。今日話し合ったことを、それぞれの場で、このような意見が出たことを伝えたい。教員の研修については、関係している者もいるので、さっそく役に立ち取り組める。

#### 4 閉会（副会長）

- ・ 今日はお忙しいところありがとうございました。
- ・ 全部は復唱できないが、幼稚園は少子化で園児数の減少等の問題、小・中学校においては、若い先生の力量についての話ができた。我々で支援できないものかと思った。
- ・ 学校教育を語る時、学校・地域・家庭の教育力が叫ばれ、その中心的な存在として頑張ってくださっているのが会長さんである。
- ・ 根本的には、社会の秩序を取り戻すことである。
- ・ 時折学校を訪れると、校門は閉まっていて入りにくい。職員室に行くと『さすまた』というものが置いてあり、ここまで来たかと、情けない思いがする。
- ・ 今年がどんな年になるか、大変不透明であるが、いい年になることを願わずにはおられない。
- ・ 会長さんには、ご自愛の上ますますご活躍ください。